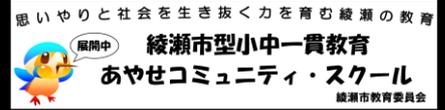


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果の 分析について (小学校) 綾瀬市教育委員会



1 調査について

令和6年度全国学力・学習状況調査が、令和6年4月18日に小学校6年生と中学校3年生を対象とした悉皆調査として、教科に関する調査（国語及び算数）と質問調査を実施したことを受け、この調査結果を本市の児童・生徒の学力・学習の状況を把握する資料の一つとし、今後はこの分析をもとに、指導の改善を図り、学力向上につなげてまいります。

2 教科に関する調査の平均正答率と平均正答数

小学校		国語	算数
綾瀬市	正答率	60%	56%
	正答数	8.4/14問	9.0/16問
全国 (公立)	正答率	67.7%	63.4%
	正答数	9.5/14問	10.1/16問

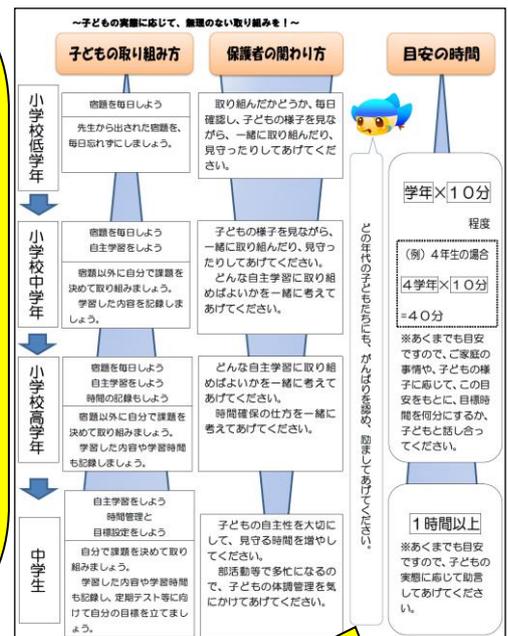
3 確かな学力の向上に向けて

- 綾瀬市型小中一貫教育に取り組み、9年間を見通した系統的な学びを実践しており、「授業での振り返り」と「家庭学習の習慣化」を推進しています。
- タブレット端末を効果的に活用した授業改善に努めるとともに、「学習支援者」の配置により配慮の必要な児童への学習支援を行います。
- 少人数学級や少人数指導の実施など、きめ細かな指導体制を進めます。
- よむYOMUワークシート（高学年で実施）等の取組により、読解力の向上に努めます。
- 読書の充実を図るために、学校司書の配置、学校図書館の充実等の読書環境の整備に努めます。
- 「あやせ学びづくり運動」「あやせ家庭読書・ふれあいの日～あやせゼロの日運動～」や、あやせコミュニティ・スクール等を通して、家庭・地域との連携を深めていきます。



○綾瀬市では、小中一貫教育の取組の一つとして、児童・生徒が安心して授業に臨めるように、「授業スタイルの共通化」に取り組んでいます。

○特に、めあて（目標）を明確にすることや、めあてに沿って振り返ることを大切にしています。



○綾瀬市では、「家庭学習の手引き」を作成し、学校と家庭が連携した家庭学習に取り組んでいます。



国語問題



国語正答例

- 全 14 問中、正答率が 80%を上回ったのは 1 問で、50%を下回ったのは 3 問です。
- 全 14 問中、無回答率が 20%を超えたのは 2 問で、8 問目と 13 問目となっています。

正答率が最も高かった問題

正答率が最も低かった問題

(2) 【高山さんのメモ】

【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。

高山さん

(2) 【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 出来事が起こった順に言葉を線をつないでいる。

2 中央の言葉と関係する言葉を線をつないでいる。

3 似ていることがらをまとめて丸で囲んでいる。

4 よい点と問題点を分けて丸で囲んでいる。

【正答】 2

◆問題番号：2 (2)

◆問題の概要：【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものととして、適切なものを選択する。

◆出題の趣旨：情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。

三 高山さんは、「高山さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた漢字に書き直すことにしました。次の部ア、イを漢字でいかに書きましょう。

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

【正答】 競技

上級生が遠くからボールをイを上げる

【正答】 投(げる)

◆問題番号：2 三ア

◆問題の概要：【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す。

◆出題の趣旨：学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

【指導の改善に向けて】 ～文や文章の中で、漢字を正しく使うことについて～

漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うように指導します。

第5学年及び第6学年は、漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期であるため、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにするよう指導します。

その際、【知識及び技能】(1)言葉の特徴や使い方に関する事項「ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと」や「オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにするよう指導します。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと」との関連を図り、指導の効果を高められるように努めます。



算数問題



算数正答例

- 全 16 問中、正答率が 80%を上回ったのは 1 問で、50%を下回ったのは 5 問です。
- 全 16 問中、無回答率が 15%を上回ったのは 2 問で、7 問目と 15 問目となっています。

正答率が最も高かった問題

(2) たくみさんは、はじめに折り紙を何枚か持っていました。
ゆうまさんから 38 枚もらって、全部で 62 枚になりました。
このことを、たくみさんがはじめに持っていた折り紙の枚数を□枚として式に表します。

下の ア から エ までの中から、正しい式を 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

ア $62 + 38 = \square$

イ $\square + 38 = 62$

ウ $\square - 62 = 38$

エ $\square - 38 = 62$

【正答】イ

◆問題番号：1-2

◆問題の概要：はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。

◆出題の趣旨：数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる。

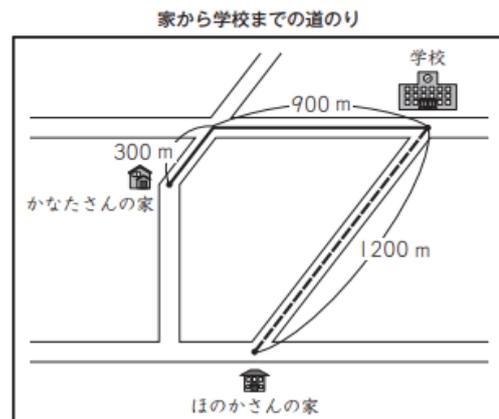
◆問題番号：4-3

◆問題の概要：家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く。

◆出題の趣旨：道のりが等しい場面の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

正答率が最も低かった問題

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは 20 分間、ほのかさんは 24 分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

【正答】1

(わけ) (例) かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900 + 300 = 1200$ で、1200m です。かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは、1200m で同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんのほうが速いです。

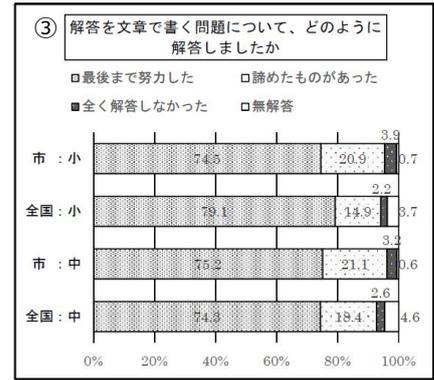
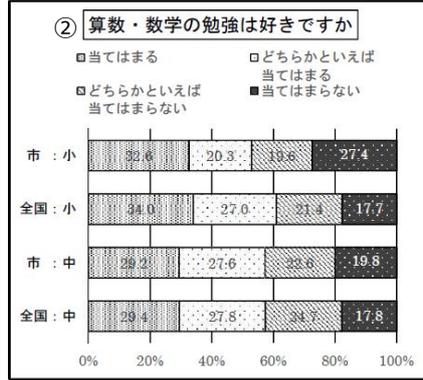
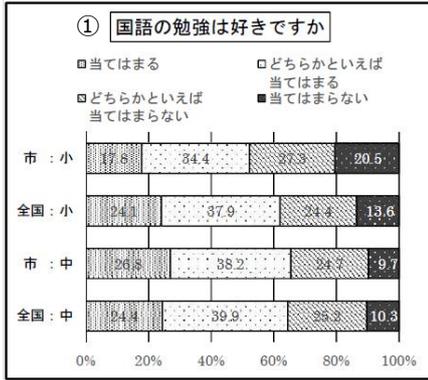
【指導の改善に向けて】～二つの数量の関係に着目し、場面にに応じて速さの比べ方を考察できるようにすることについて～

場面や目的に応じて、単位時間当たりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるように指導します。

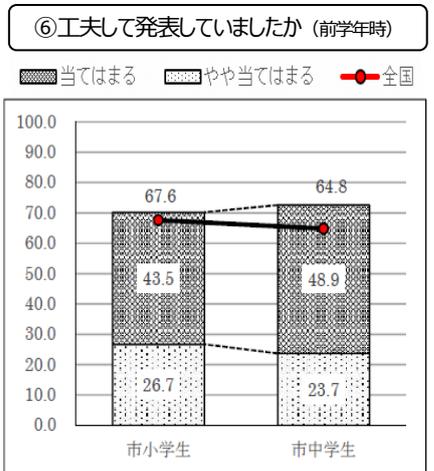
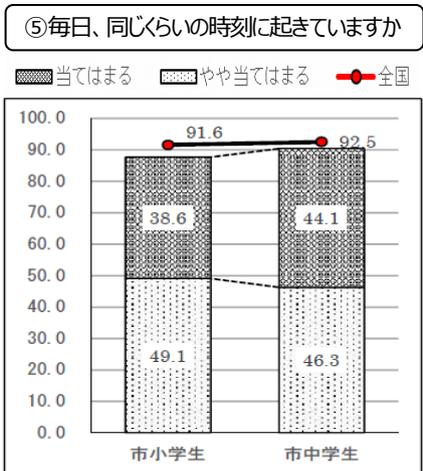
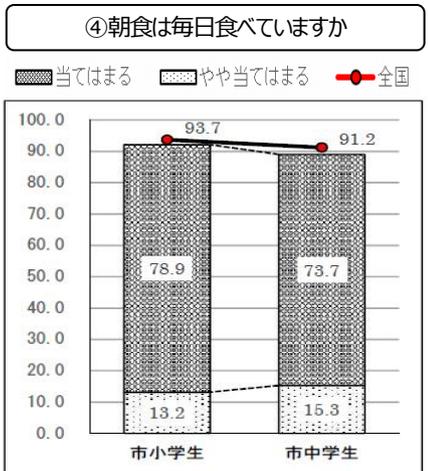
指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、二人の歩く速さの比べ方を考察する活動が考えられます。その際、二人の歩いた道のりかかった時間を確認し、道がまっすぐであることや曲がっていることに関係なく、二人の歩いた道のりが等しい場合はかかった時間で速さを比べることができることを説明できるようにすることが大切です。このとき、道のりが等しいことだけでなく、かかった時間が短いことも説明できるようにすることも大切です。また、道のり÷時間を用いて速さを求めることで二人の歩く速さを確認できるようにすることも大切であるため、これらを踏まえた指導をしていきます。

【児童・生徒質問調査の結果の分析】

児童・生徒質問調査



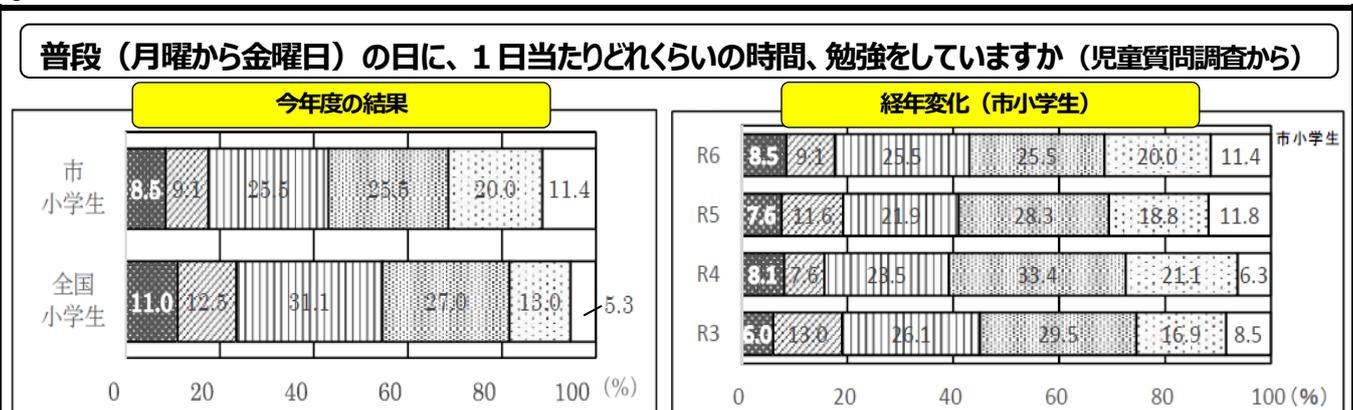
○「国語（小学生）、算数（小学生）の勉強は好きですか」については、全国より下回る傾向にあります。文章を書く問題については、約75%が「最後まで努力した」と回答しています。
○今後も引き続き、児童・生徒が「国語、算数（数学）の勉強が好き」と感じるような授業づくりに努めていきます。



○「朝食は毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」については、「当てはまる・やや当てはまる」の回答が小学生・中学生ともに90%前後となり、定着が見られます。
○「工夫して発表していましたか（前学年時）」については、「当てはまる・やや当てはまる」の回答が小学生・中学生とも全国より高く、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表をしていることが分かります。

御家庭と協力したいこと ～家庭学習の習慣化～

■ 3時間以上 ■ 2～3時間 ■ 1～2時間 ■ 30分～1時間 ■ 30分未満 □ 全くしない



○家庭学習の習慣化を目指していますが、全国平均と比べると、家庭学習の時間が少ないことがうかがえます。帰宅後の家庭での時間の使い方を、改めて見直してみることも大切です。お子さまが自分で学習の計画を立て、自主的に学習に取り組めるよう、学校でも伝えてまいります。御家庭でも引き続き温かい言葉かけや励ましをお願いします。